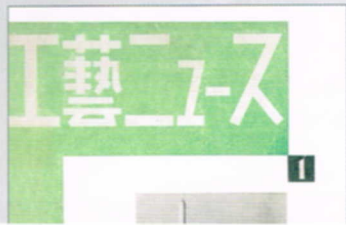
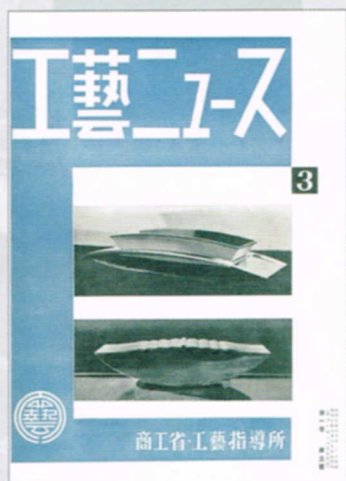




商工省工芸指導所編
 監修 特例財団法人工芸財団
 解説 森仁史



復刻版

工芸ニエース

付『工芸指導』

戦前篇

第1期〈全6巻〉
 第2期〈全6巻+別巻1〉

国書刊行会

日本のデザイン史・工芸史研究に
 おける貴重な一次資料、ついに復刻！



『工藝ニュース』復刻版刊行の意義

◆ 特例財団法人 工芸財団

このたび国書刊行会から、一九二八（昭和三）年仙台に開設された商工省工芸指導所が刊行した『工藝ニュース』の戦前・戦中期刊行分が復刻されることとなりました。『工藝ニュース』は産業工芸、デザインに関する当時最先端の研究機関誌です。

我が国は明治以降殖産振興、輸出促進の一環として産業工芸品の美化を中心としたデザイン政策を進めて来ましたが、貿易競争の中で輸出製品のより一層の品質向上を目指して科学的、合理的にデザインを行なう方向が求められ、その施策の一環として我が国初の国立のデザイン研究所となる工芸指導所が設立されました。工芸指導所は内外の産業工芸・デザインの調査研究、製品の生産・材料技術向上に関する研究など様々な試みを行ない、またドイツの建築家ブルーノ・タウト、フランスの家具デザイナーであるシャルロット・ペリアンの指導を受けてデザイン研究や日本製品のデザイン向上に取り組みました。また我が国のデザイン思想の啓蒙、普及に努め、豊口克平、剣持勇など戦後の我が国のデザイン界を牽引した多くの優秀なデザイナーを育てました。終戦を経て産業工芸試験所、製品科学研究所と名称を変え、一九九三（平成五）年に生命工学工業技術研究所、さらに二〇〇一（平成十三）年に産業技術総合研究所へと統合されました。

工芸指導所の研究成果を社会的に公開するための機関誌として一九三二（昭和七）年に創刊された『工藝ニュース』は、このような変遷の中で工芸・デザイン研究に関する貴重な調査・報告やデザイン政策などをわかりやすく伝える情報誌としてデザイン界に大きな貢献をなしつつ刊行され続けましたが、惜しくも一九七四（昭和四十九）年に休刊となりました。

このたびの復刻刊行は、我が国デザイン黎明期の研究と政策の考察などに資するのみならず、今後のデザイン界自体の方向に対しても様々な示唆を与えてくれるものと存じます。工芸指導所の流れを汲む当財団はこの度の復刻の監修を行ない、本書のもつ意義を改めて皆様を知っていただきたいと考える所存です。

かく日本はデザインしたりき

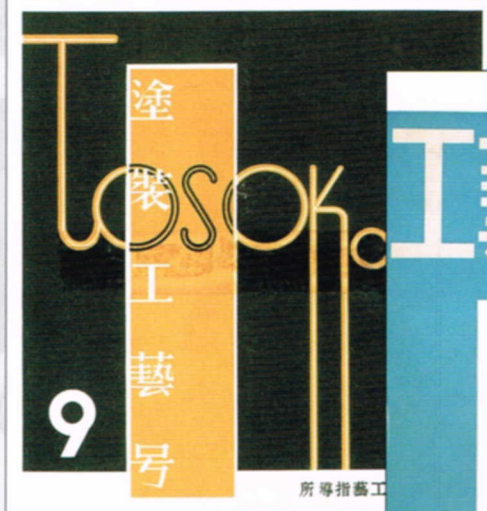
◆ 森 仁史（金沢美術工芸大学教授）

このたび復刻される『工藝ニュース』は、商工省工芸指導所の機関誌だった。この機関誌は一九二八（昭和三）年に創設された、日本で最初の総合的なデザイン指導機関である。この指導所が画期的であったのは、それまでの表面的な欧米の模倣ではなく、実際に試作することを機軸にしたところだった。その成果と実験プロセスがこの『工藝ニュース』に報告され、全国の試験場やデザイナーの導きの星となったのだ。

その創設がバウハウス設立から九年後だったことを遅いと言ってしまう。しかし、日本はヨーロッパ近代を手本にし始めてから、わずか六十年の新規参入者だったことを忘れてはいけないうらう。日本のデザインは半世紀の間に世界最先端に追いつこうとして、急速にその態勢を整えていたのだ。例えば、初期の指導所を牽引していた西川友武がデザインしたアルミアングル椅子は一九三三（昭和八）年にはアルミニウム家具国際コンペで一等を獲得していたし、この年末にはブルーノ・タウトが招かれ、彼のもとで剣持勇や豊口克平がデザイナーとして実地に機能主義デザインを学ぶことになった。『工藝ニュース』は、こうしたデザイン活動や議論が熱く語られる、日本で唯一のメディアであったのだ。

記事ばかりでなく、毎号冒頭を飾った口絵ページも指導所専任カメラマンの手によるものであり、およそ当時の他のメディアには登場しない作品やデザイン活動を伝え、まことに貴重な時代の証言ともなっている。これらが全て、復刻版の刊行によって容易に手に入ろうとしている。この雑誌を求めてかつてあちらこちらの図書館を巡った者からすれば、これからこれを手にする諸君が羨ましくもあり、ねたましくすらある。ともかく、戦前の日本人デザイナーの遺産がどれほど豊かであったかは、この誌面を一読すれば、たやすく理解できるはずだ。現在の我々のデザイン感覚を研ぎ澄ませば、そこに潜んでいる様々な原石を探り当てることができるだろうし、その価値を十分に理解できることだろう。

工藝指導



●『工藝指導』第9号(昭和8年3月)



●第1卷 第2号(昭和7年7月)



●第1卷 第5号(昭和7年10月)

全卷構成

第1期〈全6卷〉

●第1卷 昭和7年刊行分 (原本第1卷第1号〜第6号)

+ 『工藝指導』 (原本全9号)

●第2卷 昭和8、9年刊行分 (原本第2卷第1号〜第3卷第9号)

●第3卷 昭和10年刊行分 (原本第4卷第1〜12号)

●第4卷 昭和11年刊行分 (原本第5卷第1〜12号)

●第5卷 昭和12年刊行分 (原本第6卷第1〜12号)

●第6卷 昭和13年刊行分 (原本第7卷第1〜12号)

第2期〈全6卷+別卷1〉

●第1卷 昭和14年刊行分 (原本第8卷第1〜12号)

●第2卷 昭和15年刊行分 (原本第9卷第1〜12号)

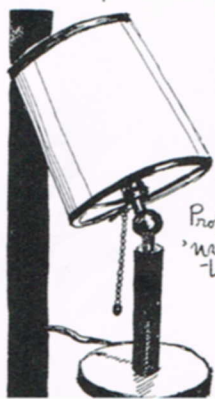
●第3卷 昭和16年刊行分 (原本第10卷第1〜12号)

●第4卷 昭和17年刊行分 (原本第11卷第1〜12号)

●第5卷 昭和18年刊行分 (原本第12卷第1〜12号)

●第6卷 昭和19年刊行分 (原本第13卷第1〜9号)

●別卷 解説・総目次



Prof. J. Hillerbrand
'nachtsisch
-Lampen'

巻頭言

本誌は、戦後、戦前とは異なる状況の中で、戦時体制から戦後民主主義へと移行する中で、戦時体制下にはなかった自由な表現の場として、戦後民主主義の発展に貢献することを目的として創刊された。戦後民主主義の発展に貢献することを目的として創刊された。戦後民主主義の発展に貢献することを目的として創刊された。

工芸ニュース 第一號 目次

時 言…………… 藤田 國井 喜太郎 (1)

藤村の染色と其の製造の
源色仕上法…………… 藤村 吉 登 彦 (2)

玉島船と其の旅行法…………… 藤村 小 羽 幾 (3)

章 匠 資 料…………… (4)

海外新商品の紹介…………… (5)

内外工芸家事情…………… (6)

近しき機械の紹介…………… (7)

本 所 載 事…………… (8)

寄 附 興 書…………… (9)

時 言

戦時体制下にはなかった自由な表現の場として、戦後民主主義の発展に貢献することを目的として創刊された。戦後民主主義の発展に貢献することを目的として創刊された。戦後民主主義の発展に貢献することを目的として創刊された。

工 藝 組 織 課 長 藤 田 國 井 喜 太 郎

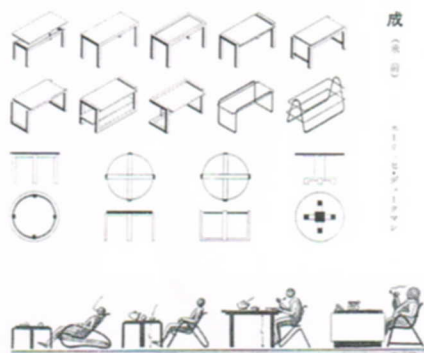
●第1巻第1号(昭和7年6月)より

『工芸ニュース』復刻版を推す

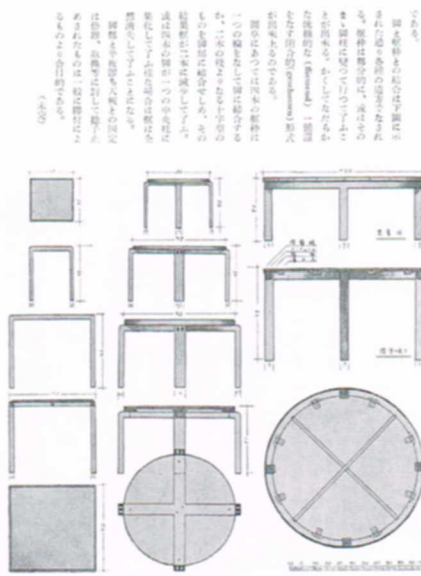
◆山中敏正 (日本デザイン学会会長)

『工芸ニュース』は日本のモノづくりデザインの理論化と体系化の礎が如何に築かれたかを知るための貴重な資料です。このたびの復刻によってデザイン学研究の一層の発展が期待されます。関係者の皆様のご努力の成果に深甚なる敬意を表します。

研 究 資 料
家 具 構 成



椅子の構成



各種寸法における二重の卓子形式

『工芸ニュース』復刻刊行によせて

◆浅香 嵩 (日本インダストリアルデザイナー協会理事長)

今、あらゆる分野でデザインが求められています。我々デザインを職能とする者にとって、その方向を見極めることは重要な課題です。『工芸ニュース』の復刻は、今後のデザインの方向を改めて確認する良い契機になると考えます。

●第1巻第3号(昭和7年8月)より



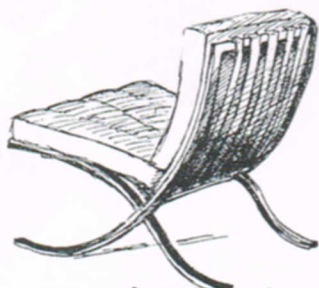
●第1巻第6号(昭和7年12月)



●「工芸指導」第3号(昭和5年3月)より



●「工芸指導」第2号(昭和4年12月)より



Mies Van Der Kolk Designed
The Johnson Apartment in
New York



●第1巻第5号(昭和7年10月)より



●第1巻第3号(昭和7年8月)



●「工芸指導」第5号(昭和6年8月)

目次より

第1巻 第1号 (昭和7年6月発行)

時言 国井喜太郎 (工芸指導所所長)

〈試験研究〉

- ・ 藤材の染色と其の製品の着色仕上法 古谷豊吉
- ・ 玉虫塗と其の施行法 小岩峻

〈意匠資料〉

- ・ 仏蘭西及白耳義に於ける意匠に就て
- ・ 鳩と燕の意匠が流行
- ・ 美しい色をしたバスト製袋物

〈内外工芸産業情報〉

- ・ 愛知県工芸協会設立とる
- ・ 第1回工芸図案募集
- ・ 瀬戸市に於ける県工芸協会瀬戸支部設置の具体的協議
- ・ 岐阜工芸協会創立総会
- ・ 結成される美術工芸作家協会
- ・ 福岡副業工芸伝習所近く開所
- ・ 新興独逸建築工芸展
- ・ 農民芸術展
- ・ 高知県で最初に開かれる工芸展覧会
- ・ 東北六県工芸品競技会褒賞授与式
- ・ 大阪高島屋で蓋あけた山陰新民芸品展覧会
- ・ 別府市に於ける全国竹製工芸品展覧会
- ・ 石川県の工芸図案展覧会及研究座談会
- ・ 家庭生活合理化展覧会
- ・ 東北六県工芸品展覧会開催

- ・ 輸出向工芸品展覧会の出品製作
- ・ 染色材の利用
- ・ 本邦竹製熊手需要状況 (ドイツ) 7
- ・ 米国の木工需要状況とアイヌ細工の有望

第1巻 第2号 (昭和7年7月発行)

輸出工芸品展示会出品物に就て

国井喜太郎 (工芸指導所所長)

〈研究資料〉

1. 家具構成 (1)
 - ・ エーリッヒ・デイクマン
2. フェノール樹脂製飲食器具検査法
 - ・ 阿部忠一 (仙台鉄道局衛生試験所)

〈新製品の紹介〉

- ・ 新金属陶器・フルーツセット
- ・ 内外工芸産業情報
- ・ 白耳義に於ける本邦輸入工芸品二三の最近の市況と響向
- ・ 哈爾濱市場のタイル意匠
- ・ 英国輸入玩具運動用具類
- ・ 原産地標記審査会報告
- ・ 米国に於けるクリスマス向玩具の仕入期
- ・ 桑港日本商品陳列所及日本人商業会議所の商取引斡旋
- ・ エナメル懸け金属家屋の出現
- ・ 新建築材料マイカルタ
- ・ 財団法人木村産業研究所の設立
- ・ 愛知県工芸協会岡崎市支部設立
- ・ 木材工芸学会の誕生

第5巻 第11号 (昭和11年11月発行)

輸出工芸展審査後感 国井喜太郎

第4回輸出工芸展・審査講評

外人の眼から・輸出工芸展評

〈本所試作〉

- ・ ステンレス・スチール応用工芸品の試作に就て
- ・ 第4回輸出工芸展覧会概況

〈図録〉

・ 輸出工芸展出品物図録

〈日本輸出工芸連合会ニュース〉

- ・ 商工省主催輸出工芸展覧会出品物受賞決定
- ・ 第1回全国図案技術官会議開かる
- ・ 台湾の工芸材料 (1) 寺坂毅

〈本所研究〉

- ・ 写真応用軽金属工芸品の研究に就て (3)
- ・ ブルー・タウト氏日本を去る (1) 鈴木道次
- ・ 新商品に就いて聴く (22) 豊口克平

〈MATERIAL・SECTION〉

・ 電気絶縁塗料

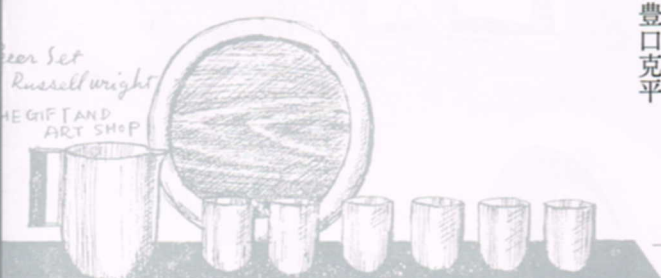
〈新材料・工芸・用途〉

- ・ 壁面の大型写真プリント
- ・ 携帯用フォノ・ラヂオ
- ・ 金属薄紙の新利用法

〈地方工芸ノート〉

- ・ 工芸伝し・千葉県 (44)
- ・ 南の別天地・大分県 (45)
- ・ 国の創り・宮崎県 (46)

.....



復刻版

工芸ニュース

戦前篇

付・『工芸指導』

〈推薦〉

日本デザイン学会会長 山中敏正

日本インダストリアルデザイナー協会理事長 浅香 嵩

〈監修〉

特例財団法人工芸財団

〈解説〉

森 仁史（金沢美術工芸大学教授）

〈第1回配本〉

第1期・全6巻（昭和7年～昭和13年刊行分）

体裁：B5判・合本・各巻平均約850頁

全6巻セット箱入り

定価：本体140、000円＋税（分売不可）

2013年3月刊行

ISBN978-4-336-05646-7

〈第2回配本〉

第2期・全6巻（昭和14年～19年刊行分）

十別冊（総目次・解説） ※その他第1期に準ず

予価：本体130、000円＋税

2013年7月刊行予定

ISBN978-4-336-05656-6

本書をお薦めしたい方々

- デザイン史・工芸史・美術史研究者
- 産業史・経済史研究者
- 美術系大学・教育系大学・大学経済学部
- 美術館・博物館・公共図書館

◆本書の特色

『工芸ニュース』は一九三二（昭和七）年に商工省工芸指導所の編集により創刊され、戦時における中断を挟み、一九七四（昭和四十九）年まで刊行された。指導所における試験・研究発表の他、国内外の工芸・デザイン関連のニュースを折々に詳細に伝え、日本のデザイン史・産業史研究における重要な基本的一次資料である。

● 原資料を完本で所蔵する機関がほとんど存在しない中、工芸財団所蔵の貴重な原本を使用し、特に重要な刊行中断前の一九四四（昭和十九）年刊行分までを一年ごとに合本し収録。

● 原本は精細な印刷技術により刊行当時そのまま改変を加えず再現し、カラー部分も再現。

● 第一回配本（第一期）には刊行分『工芸ニュース』の前身とも言える貴重な雑誌『工芸指導』も併せて復刻して収録し、資料として充実を期した。

● 第二回配本（第二期）に別冊として第一、二期分の詳細な目次と森仁史氏（金沢美術工芸大学教授）による解説論文を付し、研究・閲覧利用の便を計った。

国書刊行会

●取扱書店

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15

Tel. 03-5970-7421 Fax.03-5970-7427

http://www.kokusho.co.jp e-mail : sales@kokusho.co.jp